

「話すこと」の 指導と評価 [3]

— スモールステップを踏んだ指導のプロセス —

原田 尚孝 Harada Naotaka (熊本市立京陵中学校)

はじめに

過去2回の連載で、Show and Tell と Speaking Test の実践について報告した。最終回となる本稿では、ある程度英語で自己表現ができるようになるまでに必要な「話すこと」の指導のプロセスについて述べてみたい。私自身は生徒の「話す力」を育成するために、スモールステップを踏んだ指導を行っている。これから、その取り組みについて具体的に報告する。

く使う英語表現を一覧表にして4月の最初の授業で生徒に配布する。やり方は、教師が発問し、生徒が挙手か、あるいは教師の指名により答えるというものである。この活動は、重要文型の定着を図ることで、実践的コミュニケーション能力の基礎・基本を育成するための段階である。毎時間繰り返すことで、テンポよくスムーズに行うことができるようになる。以下はその一部である。

T: What day is today?

S1: It's Wednesday.

T: What is the date today?

S2: It's December 3rd.

T: How do you spell December'?

S3: D-e-c-e-m-b-e-r.

T: What's your favorite class?

S4: It's English.

T: What time did you go to bed last night?

S5: I went to bed at 11 o'clock.

T: What time did you get up this morning?

S5: I got up at 5 o'clock.

T: How long did S5 sleep last night?

S5: She slept for 6 hours.

① 「話すこと」の指導のスモールステッ

プ

ある程度まとまりのある英文を話すことができるようになるために、私が実践しているスモールステップを踏んだ指導は以下の5つで構成されている。

I 基礎練習段階1 … Free Conversation

II 基礎練習段階2 … Row Game

III 発展練習段階1 … Pair Work

IV 発展練習段階2 … Skit Presentation

V 発展練習段階3 … Show and Tell

これを実践するための留意点は、次の2点である。

- ・それぞれの段階で、学習活動や学習形態を工夫することにより、「話すこと」への意欲を高める。
- ・基礎練習から発展的練習へと段階を踏んで指導していく。ただし、基礎練習も必要に応じて、何度でもスパイラルに繰り返し、指導していく。

以下、段階ごとにその取り組みを報告する。ただし②については第5号で報告済みのため省略する。

2. I 基礎練習段階1 (Free Conversation)

授業中に用いる Classroom English や日常的によ

3. II 基礎練習段階2 (Row Game)

これは教室の縦、横の列 (Row) を使って行うものである。生徒は教師の言った英文を聞き、それに関する疑問文をその場で作り、質問するというものである。以下に例を示す。

T: I went to New York with my daughter last summer. Please ask me questions about it.

S1: How long did you stay in New York?

T: I stayed there for a week.

S2: Did you have a good time there?

T: Yes, I did. I had a very good time.

S3: How did you go there?

T: I went there by plane.

S4: Do you want to go there again?

T: Yes, I do.

4. III 発展練習段階 1 (Pair Work)

(1) Answer + a

B になったつもりで、() に自分がやったこ

A: What did you do last weekend?

B: I (). + a (関連する 1 文)

実際の対話例を示す。下線部が + a の部分である。

S1: What did you do last weekend?

S2: I went shopping. I bought a bag. What did you do last weekend?

S1: It was rainy. So I stayed at home.

次にこの 2 人の会話の内容を教師が他の生徒に尋ね、確認する。これにより、他の生徒も友達の発言内容を真剣に聞く習慣ができる。

T: What did S2 do last weekend, S3?

S3: She went shopping. She bought a bag.

T: That's right. Very good. Then, what did S1 do last weekend, S4?

S4: It was rainy. So he stayed at home.

(2) A を疑問文以外の文で始める

A: I didn't eat breakfast this morning.

B: ()

実際の B の例を見てみると、対話文の最初を疑問文以外の文で始める方が、B の応答に内容の広がりが見られる。

- Did you have no time to eat?
- Why didn't you eat it?
- Me, either. I'm very hungry.
- Do you want anything to eat?
- It will be lunch time soon.

5. IV 発展練習段階 2 (Skit Presentation)

本年度の 3 年生の選択英語 (生徒数 16 人) での実践である。3 人あるいは 3 人一組で、スキットを作成する。そして自分たちの作品をみんなの前で発表することで「話すこと」への自信をつける。以下は、この実践の詳細である。

(1) 作成上の留意点

- 登場人物は 2, 3 人で外国人と日本人との会話とする。
- 自然な流れのストーリーの展開とする。
- パンチの効いた落ちをつくる。
- 学習した文法事項や単語を使い、誰にでも理解できる内容とする。

(2) Skit 作品例

A ~ F までの 6 つのグループによる発表会を実施した。その中の 2 つのグループの作品を紹介する。

あ ら す じ

外国に旅行に行き海で泳いでいた久美は、おぼれてしまった。するとマイクという少年が助けてくれた。次の日、街へ行くとマイクラしき人を発見。久美はお礼を言おうと彼に話しかけるが、実は彼はマイクの双子のトムだった。

~ On the beach in Hawaii ~

Kumi: Help me! Help me!

Mike: Are you all right? Grab hold of me. Let's go.

Kumi: Thank you for saving me.

Mike: You're welcome. By the way, you are Japanese, aren't you?

Kumi: Yes. My name is Kumi. What's your name?

Mike: I'm Mike. Are you here on holiday?

Kumi: Yes, I am. I hope we can meet again.

Mike: Me too. Take care!

Kumi: See you.

~ Next day in town... ~

Kumi: Oh, hi, Mike. Thank you for saving me yesterday.

Tom: What are you talking about?

Kumi: Don't you remember me?

Tom: I've never seen you before.

Kumi: Aren't you Mike?

Tom: Oh, I get it. I'm Tom. Mike is my twin brother.

Kumi: Wow! Really? Unbelievable!!



Skit 発表の様子



Skit 発表の様子

あ ら す じ

1月1日の元旦にユキとアンディーが神社で会う。ユキはアンディーに日本の正月の文化について教える。最後におみくじを引くが、アンディーは大吉、ユキは大凶を引いてしまう。

Andy: Hi, Yuki. A Happy New Year!

Yuki: Hi, Andy. A Happy New year!

Andy: What are you doing now?

Yuki: I'm waiting in line to pray to a shrine.
Shall we go together?

Andy: Yes, let's. By the way, what do you usually do on New year in Japan?

Yuki: Mmm... We usually eat osechi, get otoshidama and do shodou.

Andy: What's shodo?

Yuki: It's Japanese writing. And we also write our purposes of the year.

Andy: Wow, that's so interesting.

～お参りを終え、おみくじの所へ行く～

Yuki: Now, let's take omikuji.

Andy: Omikuji? What is it?

Yuki: It's like fortune-telling.

Andy: OK. I see. Now, let's take it! Lucky! I've taken a 'daikichi'!!

Yuki: Oh, no. Oh, my god! I've taken a 'daikyo'.

Andy: Never mind.

(3) Skit の評価について

評価の観点を次の3つに絞り、教師の評価とともに生徒にも自己評価及び他者評価をさせた。

(A…とてもよい B…よい C…あと一歩)

- ① はっきりと大きな声を出したか。
- ② 単に暗記しているだけでなく、表情やジェスチャーが豊かにできたか。
- ③ 対話の内容が自然でわかりやすかったか。

またスキット発表終了後に、感想や意見を自由に書かせたところ、以下のような記述が見られた。

- ・身ぶり、手ぶりを工夫したり、みんなで協力してできて、達成感があった。
- ・一人ひとりが役割を持ってでき、発表が終わったあとに充実感があった。
- ・スキットを作って、英語は楽しいと思ったし、また難しいと思った。すごくいい体験になった。
- ・自分たちでストーリーを考え、英文を作るのは大変だった。
- ・発表のときに緊張した。もう少し感情をこめてやればよかった。

終わりに

「話すこと」の指導においては、スモールステップを踏んだ指導を行い、そしてそれを繰り返すことが重要であるとする。生徒にとっては基礎的基本的な英語表現を身につけ、それらを使って自分なりに表現することで「話すこと」への自信にもつながる。そして最終的には speech や debate の段階まで高めていきたい。評価についても、日々の授業での観察や speaking test などを通して適切に行い、結果を生徒に feedback して、今後の励みとなるようにしていくことが大切であろう。